

# 2016年 大 発 会

1月4日、2016年のスタートを切る大発会を行いました。

福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、市場関係者約80名の皆様にご出席をいただきました。奥井理事長が年頭の挨拶を行い、引き続き理事長の音頭により、本年が証券界にとって昨年以上にいい年になるよう祈念して、吉例の「博多手一本」を入れました。



続いて鈴木理事（ふくおか証券株式会社 代表取締役会長）の音頭により威勢よく、乾杯を行いました。



最後に晴れ着の方々の記念撮影も行われました。



## 理事長挨拶 (2016年大発会)

理事長の奥井でございます。新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族お揃いで健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。本日は、平成28年福岡証券取引所大発会に、この様にたくさんの市場関係の皆様にお集まり頂き誠に有難うございます。本年も福証のお引立ての程よろしく申し上げます。平成28年の年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

顧みますと、昨年は大納会でも申し上げましたが、戦後70年、大きな節目の年になりました。安全保障関連法が成立し、日本の安保政策は大きな転換期を迎えました。又、環太平洋12ヶ国の間で5年超の交渉を重ねた、その国の経済や社会の仕組みまで変えるといわれるTPPが大筋合意しました。又、年々深刻化している地球温暖化の抑止を目指し、先の12月にCOP21パリ協定が196ヶ国・地域により歴史的合意に達しました。この様にこれまで長く動かなかった重要事案が少しずつ動き出した年であった様に思います。更に9月に「一億総活躍社会」を掲げ、誰もが家庭・職場・地域で充実した生活を送れる社会の実現に向けた取組みが動き出しています。

一方、景気は円安・原油安の追い風により企業業績も底堅く、緩やかな回復基調を維持し、日本経済がデフレで長期停滞していた時代を脱し、さらなる成長のためのスタート地点にようやく立ったのではないかと考えています。

今年についても、基調的には円安・原油安が続くとみられることから景気回復のベクトルは変わらないとみておりますものの、引き続き、世界景気の不透明感等気懸りな面もあり、期待しつつも手放しの楽観はできない様に思っています。今年は、新興国経済の減速等で、日本を取り巻く状況も大きく変わります。大筋合意のTPPもいよいよ批准するところまでできていますので、農業分野など実態経済面で大きな変化が予想されます。今後消費税増税も予定されており、又この数年、ガバナンス改革の進捗が目覚ましいものがあり、今年は①コーポレートガバナンスコード②スチュワードシップコード③ROE経営を企業がどこまで活用するかを問われる年となります。2016年はこのような変化の年になりそうですが、日本経済にとって更なる成長の年になってほしいと思っています。

処で、今年の干支は「丙申（ひのえさる）」です。このさるの「申（しん）」

という字は、草木が真っ直ぐ伸び切り果実が成熟して固まっていく状態を表していると考えられます。「丙申（ひのえさる）」はこれまでの頑張りが形になってくる年回りのようです。今までコツコツと育ててきた事が今年には大きな成果となって実を結んでほしいと思っています。

前回の丙申（ひのえさる）は、60年前の昭和31年になりますが、神武景気相場の2年目でダウ平均の上昇率が29%に達し、経済白書で「もはや戦後ではない」と発表した年に当たります。

ご承知の方も多いと思いますが、相場格言では「未（ひつじ）辛抱、申（さる）・酉（とり）騒ぐ」といわれています。未辛抱の昨年が起伏に富んだ年になっていることから「騒ぐ」今年は大いに盛り上がり、にぎやかな相場になってほしいと思います。

今、官民あげて地方創生への取組みがなされている処ですが、地方創生には、各々の地域が中央に依拠せず、地方が主体性をもって自立的に経済発展を進めることが必要です。私ども福証は今年も、地域経済の元気が出るよう新規上場の促進・売買市場の活性化に全力で取り組みます。地域の企業が地元取引所に上場し、その株式が地元取引所で活発に売買されることは地域の資金が地域経済に活かされることとなります。地域の個人投資家の方の資金が地域の企業の成長につながることであり、いわゆる「お金の地産地消」によって地域の関係者にとってウィンウィンの関係が生まれます。「地域企業の上場は福証へ」「株式の売買は福証で」という事で皆様の力強いバックアップをお願いします。

終わりになりますが、地域貢献を旗印にこれからも地域から信頼され、地域の皆様の使い勝手のよい取引所を目指し、役職員一丸となって取り組んで参ります。今年もどうか福証にご支援・ご協力を賜りますよう宜しくお願いします。